

1 研究主題

主体的に学び、解決に向かって進んで表現する児童の育成（二年次）
～算数科における「算数チャレンジ」を生かした学習指導を通して～

2 主題設定の理由

（1）今日的課題から

21世紀の社会は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展により急速に変化しており、予測困難な時代になっている。このような先が予測できない時代に生きる子供たちには、解き方の決まった問題を効率的に解いたり、決められた手続きを効率的にこなしたりするだけでなく、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められている。

新学習指導要領においても、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。」と記入されており、表現力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことが重視されている。

（2）学校教育目標から

本校は学校教育目標を『一人一人が意識して学びの道にいそしむ西郷っ子の育成』とし、中でも、学びに関する子どもの具体的な姿として、「進んで学習する子」、「自分の考えを表現する子」、「友だちと学び合う子」を掲げている。これは、算数科の学習において、一人一人が既習事項を意識しながら、課題解決に向けて自分の考えをもち、表現や友だちとの交流を通して、確かな学びを得ることで達成できる姿である。したがって、本研究主題は本校の教育目標の具現化につながるものであると考えた。

（3）児童の実態から

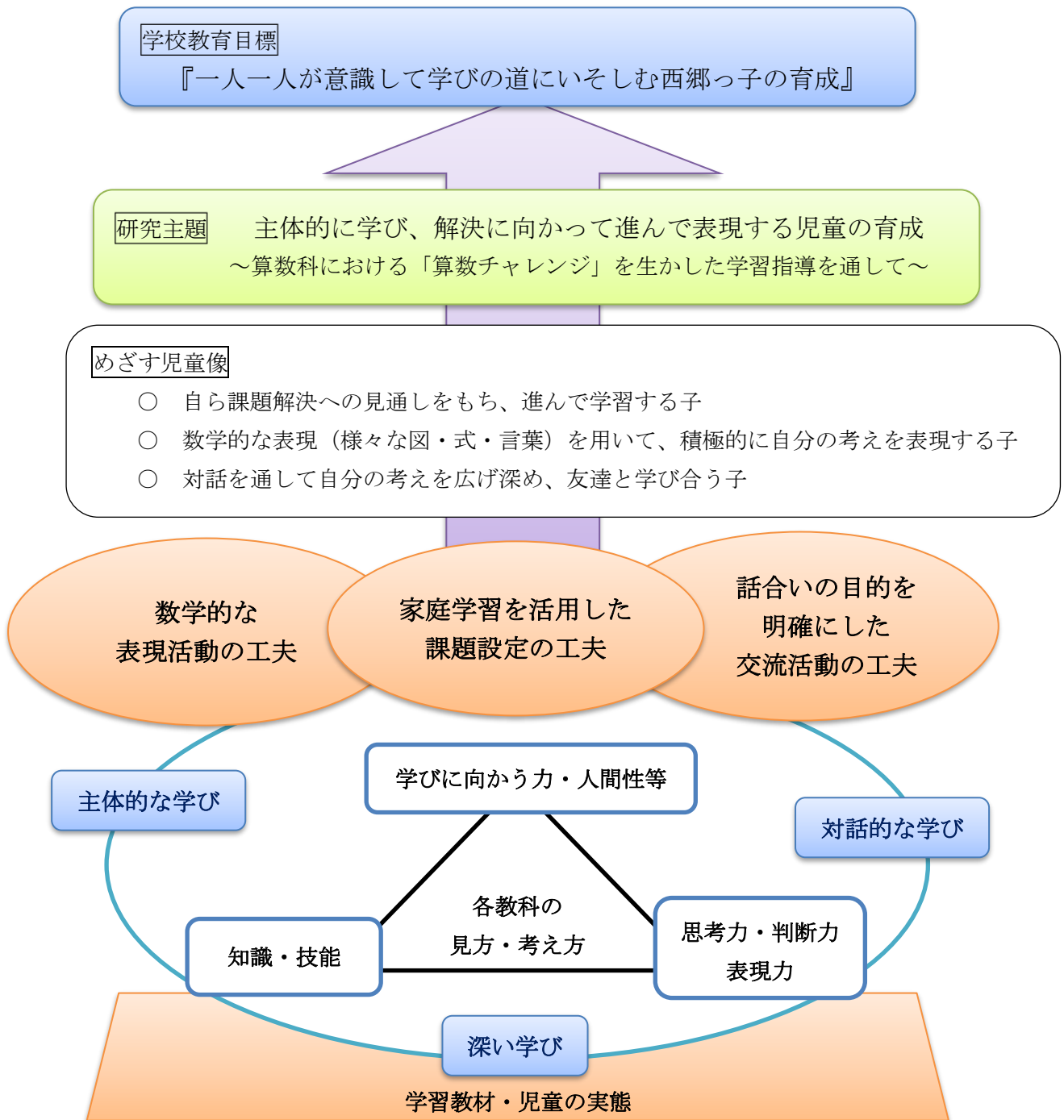
算数の授業では、既習事項が十分に身につけておらず、考える糸口を探せない児童や、自分の考えに自信がなく、表現することに苦手意識をもっている児童の姿が見られた。また、学びに対して受け身なため、友だちの考えや教師の説明を聞いたり、板書を写したりすることで安心感を得ている児童の姿も見られた。このような実態から昨年度は予習的な家庭学習（算数チャレンジ）に取り組んだ。算数チャレンジをすることで、算数に苦手意識をもっている児童の学習課題に対する抵抗感が軽減し、見通しをもって授業に臨めるようになってきている。また、導入場面の時間短縮ができたことで、交流や習熟の時間確保にもつながり、進んで対話したり課題に取り組んだりする児童の姿も見られるようになった。しかし、学び方の習得や算数チャレンジの取り組みに個人差が見られ、依然として課題に対する自分の考えを図や表を用いて書いたり、発表したりすることに苦手意識をもっている児童の割合は高い。また、単元テストや学習状況調査の結果を見ると、「知識・技能」は到達基準に達している一方で「思考・判断・表現」は到達基準に達していないことが分かる。

そこで、二年次は算数チャレンジの良さを生かし、表現力の向上を意識した指導を行うことで、主体的に学び、進んで自分の考えを表現する児童の育成ができると考え、本主題を設定した。

3 めざす児童像

- 自ら課題解決への見通しをもち、進んで学習する子
- 数学的な表現（様々な図・式・言葉）を用いて、積極的に自分の考えを表現する子
- 対話を通して自分の考えを広げ深め、友達と学び合う子

4 研究構想図



5 授業設計（授業の型、展開マニュアル）

学習過程	児童の活動内容	
算数 チャレンジ	予習的な 家庭学習	・家庭学習で次時の学習課題を読み、自分なりに考えて解く。 ・理解度を自己評価する。
つかむ	課題の設定	・算数チャレンジでの取り組みを基にして、めあてを考える。 ・既習内容・方法を想起し、見通しをもつ。
さぐる	自力解決	・図や式、言葉等で自分の考えを表現する。
たかめる	集団解決	・話合いの目的を明確にした交流活動をする。 ・学習課題の答えを導き出す。
まとめる	本時のまとめ	・「めあて」を意識した「まとめ」を考える。
チェック	判定問題	・教科書の練習問題に取り組み、理解度を自己評価する。
習熟	基礎問題 発展問題	・判定問題の理解度をもとに、基礎問題か発展問題を選択する。 ・教科書の巻末「もっと練習」の練習問題、挑戦問題、GIGA 端末を活用して学習内容の習熟を図る。
ふりかえり	自己評価	・振り返りのポイントを明示して、振り返りを書く。

6 研究内容および方法（今年度の重点項目◎）

- 家庭学習を活用した課題設定の工夫
 - 算数チャレンジ、自主学習の取り組み、意識調査
- ◎ 数学的な表現活動の工夫
 - 指導事項、数学的な表現を意識した言語活動
- 話合いの目的を明確にした交流活動の工夫
 - 児童の学びを引き出す板書や発問の仕方の模索
 - GIGA 端末の活用方法の模索

7 研究組織と活動内容

（1）研究推進委員会

- ・校内研究の主題・副題・内容についての骨子を作成
- ・校内研究全体会で積み残された問題点や疑問点の最終的な協議、解決
- ・メンバー（校長、教頭、教務、研究主任、副主任、上学年代表、下学年代表）

（2）校内研究全体会

- ① 研究推進委員会の提案について協議、共通理解
- ② 本年度の研究についての理論研究、また実践を通じた指導方法等についての研究

（3）授業づくり

- ・全職員を下・上学年の2グループに分け、検証授業・授業研究会、環境整備
- ・メンバー

下学年・・・1年、2年、3年担任、特別支援（あおぞら1、2組）担任、養護教諭、教務、校長

上学年・・・4年、5年、6年担任、特別支援（なかよし、あおぞら3組）担任、栄養教諭、級外、教頭

8 年間計画

月	形態	内 容	備考
4	研究推進委員会① 全体研究会①	<ul style="list-style-type: none"> 研究概要、職員アンケート、児童意識調査についての検討 研究概要、算数チャレンジ、算数コーナーの掲示計画についての共通理解 	
5	研究推進委員会② 授業参観① 全体研究会②	<ul style="list-style-type: none"> 全体授業研究会の協議の視点の検討 「授業公開週間」のテーマ検討 授業参観①の実施 授業参観①についての全体授業研究会 	・アンケート①実施
6	研究推進委員会③ 全体研究会③	<ul style="list-style-type: none"> 職員アンケート、児童意識調査についての検討 全体研究会での協議内容検討 職員アンケート、児童意識調査の結果報告 「授業公開週間①」についての共通理解 「言語活動」「ふり返り」をテーマにしたグループ協議の実施 	
7	授業公開週間① 研究授業① 全体研究会④	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開週間①の実施 研究授業①の実施 研究授業①についての全体授業研究会 	
8	全体研究会⑤	<ul style="list-style-type: none"> スキルタイム、タブレット端末持ち帰り、ふり返りについての共通理解 板書、及び板書共有フォルダの紹介 	
9	研究推進委員会④	<ul style="list-style-type: none"> 「授業公開週間」のテーマ検討 	
10	研究推進委員会⑤ 全体研究会⑥	<ul style="list-style-type: none"> 全体研究会での協議内容検討 「家庭学習頑張り週間」のチェック項目についての検討 「授業公開週間②」についての共通理解 「算数の基礎基本を定着させるための手立て」「誉め言葉、誉める場面」をテーマにしたグループ協議の実施 	
11	授業公開週間② 研究推進委員会⑥ 全体研究会⑦	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開週間②の実施 研究のまとめについての検討 研究のまとめについての共通理解 「児童の多様な表現活動を支える教師の工夫」をテーマにしたグループワークの実施 	
12	全体研究会⑧ 研究授業②	<ul style="list-style-type: none"> 授業公開週間②の実施 研究授業②の実施 研究授業②についての全体授業研究会 	・アンケート②実施
1	研究推進委員会⑦ 全体研究会⑨	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の校内研究についての検討① 研究のまとめの読み合わせ、加除・修正 研究のまとめの加除・修正 	
2	研究推進委員会⑧ 全体研究会⑩	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の校内研究についての検討② 令和6年度の校内研究についての意見交流 	
3	研究推進委員会⑨	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の校内研究「研究概要」の検討 	